

企10

『尿中有形成分分析装置 USCANNER』のご紹介

◎舩岡 正二郎¹⁾

東洋紡株式会社 診断システム事業部¹⁾

【はじめに】

尿沈渣検査は、腎・尿路系疾患の診断において、臨床的に重要な検査です。一方で、用手で行う場合、検査方法が煩雑で熟練した技術を要するという面もあり、最近の検査室では、尿沈渣検査の自動化が普及しつつあります。東洋紡では、およそ 20 年前から染色標本を用いたカラー画像による尿中有形成分分析装置「USCANNER」シリーズを販売しております。近年では広く海外にも販売しています。

【測定原理】

染色液、カバーガラス一体スライド、オートフォーカス機能付き顕微鏡を組み合わせることにより、検査室で日常行われている鏡検作業に準じた手順で測定します。

【特長】

1. カラー染色画像

染色液を用いることで細胞成分の鑑別・確認が容易になり、オートフォーカス機能の装備により鮮明な画像が得られます。

2. 簡便な画像確認

無遠心尿の画像を重ね合わせる合成技術を用い、画像上で濃縮された状態となり、沈渣像に近い画像を表示します。画像は汎用ファイル形式で保存されますので、検査室内だけでなく臨床との情報をやり取りすることも可能です。

3. 検体性状の影響を受けない

検体は分注するのみで、機械内部に吸引する原理ではないので、持ち込みが少ない原理です。粘性の高い検体、粒子の多い検体や高蛋白の検体などについても測定可能です。

【まとめ】

USCANNER は、鏡検作業に長時間費やす従来の検査にかかる負担を軽減します。また、得られた標本画像は多くの人が一度に見ることができ、その場で検討できます。したがって客観性のある検査結果を報告することが可能になるだけでなく、検査室内の教育訓練の一助になると考えます。

連絡先：東洋紡 診断システム事業部 TEL06(6348)3335